

# 産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 コウノトリ育む農法技術向上協議会  
 都道府県 兵庫県  
 対象地域 豊岡市  
 対象品目 水稻



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

- 有機質肥料を用いた施肥の施用
- 土壌分析による施肥体系の構築
- 江の設置（中干し、水管理）

## 目指す姿

この地域では“コウノトリ育む農法”が普及しており、環境に優しい農業が定着しつつある。コウノトリ育む農法には、化学肥料や化学合成農薬の使用を減らした“無農薬栽培”とそれを全く使用しない“無農薬栽培”があるが、無農薬栽培は農薬を使用しないため除草技術の確立が難しく、また低収量であることから、近年面積が伸び悩んでいる。豊岡市で令和4年度から実施の学校給食への無農薬米の提供を行うに当たり、「無農薬栽培での収量の確保」がさらに重要になっている。無農薬栽培、有機農業の面積を今後拡大していくために、有機農業でも適切な方法で栽培すれば収量が確保できること、また除草作業等による労力も、省力的な技術を用いれば労力の軽減になることを検証する。

## 現在の栽培体系（育む農法コシヒカリ無農薬タイプ参照）

|       | 4月 | 5月   | 6月  | 7月 | 8月  | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月   | 3月 | 備考     |
|-------|----|------|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|------|----|--------|
| 主な作業名 | 堆肥 |      | 田植え | 茎肥 | 中干し |    |     |     | 刈取り | 堆肥 | 秋おこし |    | 冬みず田んぼ |
| 技術名   |    | 早期湛水 |     |    |     |    |     |     |     |    | 土づくり |    |        |

## グリーンな栽培体系（多収穫品種）

|       | 4月 | 5月   | 6月  | 7月  | 8月     | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月   | 3月 | 備考     |
|-------|----|------|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|----|------|----|--------|
| 主な作業名 | 堆肥 |      | 田植え | 中干し | 穂肥①    | 穂肥② |     |     | 刈取り | 堆肥 | 秋おこし |    | 冬みず田んぼ |
| 技術名   |    | 早期湛水 |     |     | の有機質資材 |     |     |     |     |    | 土づくり |    |        |

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

|                        |  | 面積    | 備考                    |                       |
|------------------------|--|-------|-----------------------|-----------------------|
|                        |  |       | 令和5年度時点 <sup>※1</sup> | 令和6年度時点 <sup>※1</sup> |
| (参考) 豊岡市内の水稻作付面積 (ha)  |  | 2,853 |                       |                       |
| (参考) 育む農法取組面積          |  | 512   |                       |                       |
| (参考) コウノトリ育む農法（無農薬タイプ） |  | 244   |                       |                       |

※ 1 県調べ、※ 2 協議会調べ

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

## 〈技術の内容・効果〉

| 分類 | コシヒカリ無（現状） | 多収穫品種で新たに取り入れる技術 | 期待される効果   |
|----|------------|------------------|---|
| 環境 | —          | 江の設置             | 生き物の生息の確保。<br>トノサマガエルの変態に依存しない中干しが可能となり、ほ場のガス抜き効果が向上。 |

| 分類 | コシヒカリ無（現状）     | 多収穫品種で新たに取り入れる技術 | 期待される効果    |
|----|----------------|------------------|------------|
| 環境 | 有機質資材の施用（茎肥1回） | 有機質資材の施用（穂肥2回）   | 多収穫品種の収量向上 |

## 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

| 分類 | 指標                | 現状          | 目指すべき水準 | 備考      |
|----|-------------------|-------------|---------|---------|
| 環境 | 学校給食における無農薬米の通年提供 | 4ヶ月(白米量32t) | 通年      | 長期休暇を除く |

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する

(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任せとする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

兵庫県豊岡市は“コウノトリ育む農法”が普及しており、市では令和4年度から実施の学校給食への無農薬米の提供を行っている。そのため「無農薬栽培での収量の確保」がさらに重要になっている。しかしながら除草技術の確立が難しく、農業者毎の収量にばらつきが生じていることから、近年面積が伸び悩んでいる。そこで、本事業で作成したマニュアル等を用いて講習会などで広く普及し、地域全体の栽培技術の向上を図る。

## 関係者の役割

|      |             |              |          |            |
|------|-------------|--------------|----------|------------|
| 関係者名 | 豊岡農林水産振興事務所 | 豊岡農業改良普及センター | J Aたじま   | 豊岡市        |
| 役割   | 事業主体        | 技術の普及・指導     | 技術の普及・指導 | 事業のコーディネート |

その他